



まだまだざわつく日本美術

会期 | 2025年7月2日(水)～8月24日(日)



サントリー美術館(東京・六本木)は、2025年7月2日(水)から8月24日(日)まで「まだまだざわつく日本美術」を開催いたします。

ある作品を見た時、「えっ?」「おっ!」「うわあ…」と感じたことはないでしょうか? こうした言葉にならない「心のざわめき」は、作品をよく見るための大切なきっかけとなるはずです。本展は2021年に開催した展覧会「ざわつく日本美術」の第2弾。思わず「心がざわつく」ような展示方法や作品を通して、目や頭、心をほぐし、「作品を見たい!」という気持ちを高めていきます。

今回のテーマは「ぎゅうぎゅうする」「おりおりする」「らぶらぶする」「ぱたぱたする」「ちくちくする」「しゅうしゅうする」の6つ。まだまだ知られていないサントリー美術館のコレクションを通して、作品を「見る」という行為を意識して愉しみながら、日本美術のエッセンスを気軽に味わっていただける展覧会です。

作品との出会いによって沸き起こる、自分自身の「心のざわめき」に耳を傾けると、日本美術の魅力にぐっと近づけるような、意外な発見があるかもしれません。

展示構成

※作品は全てサントリー美術館の所蔵です。

※展覧会会場では、章と作品の順番が前後する場合があります。また、展示内容は予告なく変更される場合があります。

第1章 ぎゅうぎゅうする

—あれもこれも!? 「〇〇尽くし」デザインをひとつ残らず知り尽くす



見どころ

お宝がぎゅうぎゅう
中央の「寿」字も、このお皿の
「おめでたさ」を高めています。

色絵寿字宝尽文八角皿 鍋島藩窯 一枚
江戸時代 17世紀末～18世紀初 【通期展示】

乗り物がぎゅうぎゅう
かと思いきや、「風車」で遊ぶ
猫の赤ちゃんの姿も見えます。

見どころ

志ん版車づくし 幾英 一枚
明治時代 19世紀 【展示期間:7/30～8/24】

本章で注目するのは、日本で古くから親しまれてきた「尽くし文」や「ものづくし絵」です。

「尽くし文」とは、同じ意味や種類のモチーフを集めた文様のこと。その代表格である「宝尽くし文」を表した「色絵寿字宝尽文八角皿」の見込には、15種もの宝物がぎゅうぎゅうに詰まっています。あふれるほどの幸福への願いを込めた本作を見ていると、どんな気分になれるのでしょうか？ 一方、「志ん版車づくし」は明治時代に普及した鉄道馬車や自転車など、「車」と名の付く物を集めた「ものづくし絵」の作例です。愛らしいことに、本作の登場人物は皆、猫の姿で表されています。こうした遊び心のある表現には、物事に関する知識を楽しみながら学ぼうとする精神が感じられます。

本章では、「〇〇尽くし」デザインの世界観を拡張するべく、何が、どこに、どう表されているのかを、くどいほど説明し尽くした「キャプション尽くし」の展示を試みます。ぎゅうぎゅうに配置されたキャプションを読みながら、作品をその細部に至るまで見尽くすことで、知的好奇心も満たされるはずですよ。

主な出品作品	・扇の絵尽し絵巻	一巻	室町時代	16世紀
	・貝尽蒔絵料紙箱・硯箱	小川破笠	一具	江戸時代 18世紀
	・即興かげぼしづくし	歌川広重	二枚	天保年間(1830～44)
	・重要文化財 日吉山王祇園祭礼図屏風	土佐光茂	六曲一双	室町時代 16世紀 ※重要文化財指定(令和6年新指定)後、当館では初お披露目となります。

第2章 おりおりする —実は自由自在!? 屏風を自分好みに折り曲げてみると…



孔雀図屏風 左隻
雲谷等璠
八曲一双のうち
江戸時代 17～18世紀
【通期展示(扇替あり)】

見どころ
展示作品をモデルにした
ミニ屏風を、自分好みに
おりおりする体験コーナー
もあります。

表彰式や結婚披露宴などのお祝いの中で、金屏風がジグザグに折り曲げられている様子を見たことはないでしょうか？こうした屏風は、空間を華やかに彩り、おめでたい雰囲気を演出する役割を担っています。

そもそも屏風は、空間を区切るパーテーションとして、日常生活の中で使われてきました。例えば、「石山寺縁起絵巻(模本) 第五巻」では、夜のお堂で眠る女性を囲うように、屏風がぐるりと立て回されています。あるいは「鼠草子絵巻 第三巻」では、入浴する姫君の姿を屏風で隠しています。注目したいのは、これらの絵画に描かれた屏風が、ジグザグではなく不定形に折り曲げられていることです。

本章では、そうした歴史的背景を踏まえ、空間の大きさや用途に応じて自由自在に折り曲げられてきた屏風を再現展示します。ジグザグに、しかも整然と折り曲げられた屏風を見慣れた目には少し異様に映るかもしれませんが、いつもとは変わった折り曲げられ方のおかげで、モチーフの遠近感が強調されて見えるといった新鮮な発見もあることでしょう。



石山寺縁起絵巻(模本) 第五巻(部分)
谷文晁 七巻のうち 江戸時代 19世紀
【展示期間:7/2～7/28】

見どころ

お堂の柱を避けるように、
屏風の端がくるっと後ろへ
おりおりされて、
折り曲げられています。

主な出品作品	・徒然草絵巻 第七巻	海北友雪	二十巻のうち	江戸時代	17世紀
	・武蔵野図屏風		六曲一双	江戸時代	17世紀
	・桐鳳凰図屏風	狩野探幽	六曲一双	江戸時代	17世紀
	・猛虎図屏風	岸駒	六曲一双	文政5年(1822)	

第3章 らぶらぶする

—いつの時代も心ざわめく!? 思い思われふりふられな複雑^{らぶ}♡模様

鼠草子絵巻
第五巻(部分)
五巻のうち
室町～桃山時代
16世紀
【展示期間:7/30～
8/24】



見どころ

帯締め、箆、手箱、元結
寝具、鏡箱…
これらは全て、鼠の権頭が
恋した^{らぶ}姫君の形見です。

昔も今も恋する心はざわめくもの。当館の収蔵品の中にも、豊かな恋愛模様が繰り広げられています。

例えば、「鼠草子絵巻」には人間に恋する鼠が登場します。主人公の鼠の権頭^{ごんのかみ}は、清水寺の観音様のご加護によって人間の姫君と結婚したものの、正体がばれると姫君に逃げられてしまい、悲しみのあまり出家します。姫君の嫁入り道具をひとつひとつ並べて和歌を詠み、さめざめと泣き暮れる権頭の様子は哀愁を誘います。あるいは、西川祐信による「美人図」は一見、身繕いをする女性を主題とした作品に思われます。ここで注目すべきは、彼女が視線を落とした先にいる、衝立に描かれた古代中国の詩人・陶淵明^{とうえんめい}です。実際に陶淵明が詠んだ漢詩に基づいて本作を読み解くと、衝立の中の陶淵明から女性に対する、燃えるような恋心が浮かび上がってきます。

本章では、人物相関図や場面解説を手掛かりに、作品の主題となったり密かに暗示されたりした様々な愛のかたちをご覧ください。時に謎解きの面白さを味わいながら、複雑怪奇な恋愛模様をじっくりご堪能ください。

実は、腰巻の紐を結ぶ^{らぶらぶ}という女性の仕草に、陶淵明の恋にまつわる隠れた意味があります。

見どころ



美人図(部分) 西川祐信
一幅 江戸時代 18世紀
【展示期間:7/2～7/28】

主な出品作品

- ・忍草蒔絵小硯箱 一合 室町時代 15世紀
- ・新蔵人物語絵巻 一卷 室町時代 16世紀
- ・伊勢物語図色紙 水鏡 近衛尚嗣書 伝 俵屋宗達画 一面 江戸時代 17世紀
- ・玉藻前草子絵巻 上・下巻 三巻のうち 江戸時代 17世紀

第4章 ぱたぱたする

—二次元⇔三次元!? 展開させればハッとする立体作品の妙



紫陽花螺鈿蒔絵重箱 一合 江戸時代
17世紀 【展示期間:7/2~7/28】



見どころ

ぱたぱた
重箱を**展開**してみると、平蒔絵や螺鈿の技法を駆使して表された、ダイナミックな川辺の風景が広がります。



兎蒔絵茶箱 一基 江戸時代 17世紀
【展示期間:7/30~8/24】



見どころ

ぱたぱた
今回**展開**してみる側面だけでなく、把手の付いた天面にも、前脚を揃えて飛び跳ねる兎が表されています。

立体的な美術品に表された図様を把握することは簡単ではありません。作品をぐるっと一回りした上で、目に映ったイメージを頭の中で再構成する必要があるからです。

本章で注目したいのは、まさしく立体作品の図様です。例えば、「紫陽花螺鈿蒔絵重箱」は蓋と身の全面に、太鼓橋の架かる濁流を背景として、紫陽花の咲き誇る川辺の風景が表されています。この風景を展開図に起こして本作と見比べると、川波の一番高い部分を重箱の角に据えることで、波の立体感を強調している様子がわかります。あるいは「兎蒔絵茶箱」は、デフォルメされた計4羽の兎の姿が微笑ましい作品です。本作を展開図にしてみると、まるでコマ撮りのアニメーションのように、兎がころころと飛び跳ねて見えます。

本章では、漆工、やきもの、ガラスなどの立体作品を360度から見られるように展示した上で、各作品とその展開図を比較できるような工夫を凝らします。両者を比較して見ることは、図様の繋がり方や装飾技法の細部を理解するだけでなく、作り手の工夫や意図を発見するヒントになるでしょう。

主な出品作品

- ・五節句蒔絵手箱 柴田是真 一合 明治時代 19世紀
- ・銹絵染付松樹文茶碗 尾形乾山 一口 江戸時代 18世紀前半
- ・紫霞風炉 木米 一基 文政7年(1824)
※新収蔵後、本展で初お披露目となります。
- ・紫色藤蒔絵瓶 一口 文政8年(1825)頃

第5章 ちくちくする

—手は口ほどにものを言う!? ひと針ひと針に表れた刺し手の気持ち



見どころ
白い木綿糸でびっしりと刺し綴られた身頃には、薄い麻布には無い重厚さと温かみがあります。

津軽の方言で「×印」を意味する言葉に由来するとも言われる「やすこ刺し」というモドコを刺しています。
見どころ

東こぎん 着物 一領 江戸～明治時代 19世紀
【展示期間:7/2～7/28】

同左(部分)

針と糸を使って手を動かすことで自分の心が整っていく。手芸好きな人であれば誰しもそんな経験があるでしょう。本章で取り上げるのは、現在では手芸の一分野としても知られる「津軽こぎん刺し」です。

津軽こぎん刺しは江戸時代後期以降、現在の青森県津軽地方の農村の女性が育んだ技法のこと。1mmにも満たない麻布の経糸を奇数目に拾いながら、緯糸にそって木綿糸を刺し綴るという作業を一段ずつ繰り返すことで、織物のように美しい幾何学模様を表しています。こうした模様を構成するのは、「モドコ」と呼ばれる基礎的な単位模様です。約40種あるとも言われるモドコには「てこな(蝶)」「べこ(牛)刺し」など、女性たちの身近にあった物の名前が付いています。

本章では、実際の作品に表されたモドコを観察したり、その模型に触れることで、モドコの名前や形に親しみます。面白いことに、モドコにはしばしばアレンジや刺し間違いが見出せます。小さなモドコの細部を見ていくと、刺すことの喜びやちょっとした苦しみなど、刺し手の気持ちに近づけるかもしれません。

主な出品作品	・西こぎん 身頃	一枚	江戸～明治時代	19世紀
	・三縞こぎん 身頃	一枚	江戸～明治時代	19世紀
	・二重刺し東こぎん 着物	一領	江戸～明治時代	19世紀
	・染め西こぎん 身頃	一枚	江戸～明治時代	19世紀

第6章 しゅうしゅうする —集めて分けて保管して!? コレクターたちの愛と執念

江戸時代の絵画コレクターが選んだという画帖には、伊藤若冲や円山応挙など有名絵師たちの作品が揃います。



墨梅図 伊藤若冲 一図(棲鸞園画帖のうち)
江戸時代 18世紀 【展示期間:7/2~7/28】



薩摩切子 藍色被船形鉢 一口
江戸時代 19世紀中頃 【通期展示】



蝙蝠文と陰陽勾玉巴文を表したガラス鉢は、朝倉文夫氏がコレクションした中でも随一の名品です。

好きな物を集めて、それらを並べた様子を見ているだけで心が満たされるという気持ちは、時代を問わず、コレクターと呼ばれる人々に共通する喜びと言えます。

例えば、18~19世紀の絵師の作品15図を貼り込んだ「棲鸞園画帖」は、とある人物が10数年かけて集めたコレクションから粋を選んだものと伝わります。大きな画帖を一枚一枚めくるたびに、収集への情熱や自負がうかがえるようです。

ところで当館の収蔵品には、散逸せずに残ったコレクターの作品群が多数含まれます。とりわけ、彫刻家・朝倉文夫氏が集めた日本・中国・ヨーロッパのガラス約300件は、質量ともに国内最高峰のレベルを誇ります。また、とある皮膚科医が集めた700件余りの「髪飾用具並びに文献類」は、種類や材質ごとに収納箱に整理されており、作品と真摯に向き合うコレクターの心が感じられます。

本章では、収集にまつわる逸話や収納箱などをも通して、コレクターたちの愛と執念に迫ります。鑑賞後には思わず何かを集めたくなるとともに、今ここに作品が在ることの尊さを実感する機会となれば幸いです。

主な出品作品

- ・ 笙 銘 小男鹿丸 行円 一管 建保3年(1215)
- ・ 髪飾用具並びに文献類 七〇九件のうち
江戸~大正時代 17~20世紀
- ・ ガラス片 東地中海沿岸 九十枚のうち 前14~後14世紀
辻清明コレクション
- ・ 近代欧米ガラス ヨーロッパ・アメリカ・日本 四一二件のうち 17~20世紀

まだまだざわつく日本美術

- 会 期** 2025年7月2日(水)～8月24日(日)
※作品保護のため、会期中展示替を行います。
- 主 催** サントリー美術館
- 協 賛** 三井不動産、鹿島建設、サントリーホールディングス
- 会 場** サントリー美術館
東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3階
- アクセス(東京ミッドタウン [六本木] まで)
都営地下鉄大江戸線六本木駅出口8より直結
東京メトロ日比谷線六本木駅より地下通路にて直結
東京メトロ千代田線乃木坂駅出口3より徒歩約3分

基本情報

- 開館時間** 10時～18時
※金曜日および8月9日(土)、10日(日)、23日(土)は20時まで開館
※いずれも入館は閉館の30分前まで
- 休 館 日** 火曜日(8月19日は18時まで開館)
- 入 館 料** ・当日券：一般1,700円、大学生1,200円、高校生1,000円
・前売券：一般1,500円、大学生1,000円、高校生800円
※中学生以下無料
※サントリー美術館受付、サントリー美術館公式オンラインチケット、ローソンチケット、セブンチケットにて取扱
※前売券の販売は4月29日(火・祝)から7月1日(火)まで
※サントリー美術館受付での販売は4月29日(火・祝)から6月15日(日)の開館日のみ
- 割 引** ・あとろ割：国立新美術館、森美術館の企画展チケット提示で100円割引
・団体割引：20名様以上の団体は100円割引
※割引適用は一種類まで(他の割引との併用不可)

イベント情報

| 展覧会関連プログラム |

トーク「まだまだわいわいする！ざわつく日本美術展のできるまで」

今までにない(当館比)コレクション展である本展の企画から展示まで、担当者による裏話。

日時：7月6日(日)・20日(日)、8月17日(日) 各日11時～、14時～(各回約40分)

会場：6階ホール 定員：95名 参加無料(別途要入館料) ※申込不要・当日先着順

「みんなで楽しむ！サン美まるごとアートフェス 2025」

子どもから大人まで、どなたでも楽しめるアートのお祭りを初開催！

開催日：8月10日(日)

詳細は6月下旬にウェブサイトでご案内します。

| 呈茶席(お抹茶と季節のお菓子) |

日時：7月3日(木)・17日(木)・31日(木)、8月14日(木)・21日(木)

12時、13時、14時、15時にお点前を実施(お点前の時間以外は入室不可)

会場：6階茶室「玄鳥庵」 定員：各回12名/1日48名

呈茶券：1,400円(別途要入館料)

※13時、14時、15時の呈茶券はサントリー美術館公式オンラインチケットにて前売券販売

※残席がある場合および12時の回のみ、当日10時よりサントリー美術館受付にて販売

(先着順、お一人様2枚まで。混雑時は9時半以降に整理券配布)

詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。追加のプログラムを開催する場合もウェブサイトでご案内します。

お問い合わせ

一般お問い合わせ	TEL：03-3479-8600
美術館ウェブサイト	https://www.suntory.co.jp/sma/
広報画像のお申込み	https://www.suntory.com/sma/press/exhibition/v94r7P/upload/zawabi0403.pdf
報道関係のお問合せ	「まだまだざわつく日本美術」広報事務局(株式会社TMオフィス内) 担当：馬場・永井・西坂 TEL：050-1807-2919 E-mail：zawabi@tm-office.co.jp
美術館への取材に関するお問い合わせ	サントリー美術館〔学芸〕久保、関〔広報〕石松 E-mail：sma-pr@suntory.co.jp

以上